

教育目標 「 知性豊かに 心さわやか たくましく生きる 」



志

学校だより

R4 .12 .1

四日市市立内部中学校 第 32 号

12月を迎えて

令和4年も、あっと言う間に12月となりました。学校等は「年度」で区切りとなっていますのでまだ途中ですが、「1年」として考えると、一つの年が終わりを迎えます。月日が過ぎるのが早いと感じるとともに、今年を振り返り、その成果や課題について整理して、来年につなげたいと思います。

こうした「振り返り」は、年末や年度末に限らず、もっと短い区切りにおいても行っ



ていけると良いです。具体的には、「今日一日で頑張れたことは何か、改善すべきことは何か」について考えられる人は、日々の成長が確かなものになるでしょう。もっと細かく考えると「今の授業での取り組みはどうであったか」、「今日の部活動はしっかりと取り組めたか」となります。

よく、「反省する」という言葉を聞きますが、自分の間違いを認めて謝ることをイメージする人が多いと思います。もちろんそうしたことも反省ですが、本当の反省とは、振り返って明らかになった課題や問題について、具体的な改善方法を考えて、それを実践することだと思います。何だかとてもむずかしく感じてしまうかもしれませんが、要は「本当に気にするかどうか」です。

もちろん、自分の問題点に気づいた際に、そのことで心配や迷惑をかけた人に「ごめんなさい」の言葉にして伝えることも大切なことです。繰り返しますが、本気で反省できた人は成長します。

人権について考える

2学期は各学年において「人権学習」に取り組みました。授業等で仲間と学ぶ経験は貴重です。しかし本来「人権」は、いつでも意識して考えたり行動したりすべきことです。とてもシンプルに言えば「自分を大切にする、周りの人を大切にする」ことなのです。自分の心や身体を大切にすることは、何よりも大切ですが、私たちの周りにはたくさんの方がいて、関わり合いながら、支え合いながら生活しています。ですから、「周りの人を大切にする」ことはとても重要ですし、そのことは「自分を大切にする」ことにつながります。簡単に言えば「周りの人に嫌な思いをさせない、迷惑をかけない」ことです。このことは、すべての場面において当てはまります。

毎日の学級や部活動での関わりの中で、自分がそのような思いを、周りの人にさせていないかを考えてみてください。また、SNS等を使うこともあると思いますが、そこでも同じように、嫌な思いをさせたり、迷惑をかけたりしていないかを、常に考えてください。相手を慮る（思いやる）ことは、学校に限らず、すべての社会生活において必要で、とても大切なことなのです。

性教育講演会

11月28日（月）に、市内で助産師として活躍していらっしゃる、矢野友起子さんをお招きして、3年生を対象に「性教育講演会」を実施しました。2時間の講演でしたが、矢野さんが優しくわかりやすくお話ししてくださったので、生徒たちは落ち着いてしっかりと聞くことができました。

冒頭では、「助産師の仕事」「助産師の願い」について、お話しいただきました。



生命の誕生のお手伝いをする、とても大切な仕事であるとともに、緊張を伴うことについてお話しいただきました。また「生命誕生の神秘」では、多くの可能性の中で私たちが生命をいただいたことを学び、毎日生活していることの「素晴らしさ」について再認識することができました。

その後は、「いのちをつなぐところとからだづくり」「女性の思春期のからだの成長」「性感染症。どんな病気？」「デートDV、性犯罪」と、多岐に渡ってお話しいただきました。

お話を聞いていると、「生命の尊さ」や「不思議さ」を再認識するとともに、「生きていること」のありがたさや喜びについて、しみじみと考えさせられました。生徒たちもしっかりと受け止め、自分事として考えたことでしょう。自分や周りの人の生命や身体を大切にすることは、表面に書いた「人権」の内容にも重なります。性に関すること、「慮ること」が何よりも重要です。

本の紹介 「女の子がいる場所は」 著者 やまじえびね KADOKAWA

「わたしたちは結婚しないと生きていけないの？」生まれついた性別で育った場所で奪われる夢があるなんて…。遠い国の少女と私たちは一緒だ。国も宗教も文化も違う、10歳の少女たちに降りかかる「女の子だから」の物語を描いた注目の本（漫画）です。

6つのショートストーリー（サウジアラビア、モロッコ、インド、日本、アフガニスタン）がオムニバス形式でまとめられています。それぞれの国で、10歳の女の子が直面する課題や葛藤が描かれており、とても考えさせられます。

以下に本書の中で気になった台詞を、ランダムに並べてみます。

- ・「女の子なんだから勉強なんかできなくていいの」とおばあちゃんは言うけど、本当に？
- ・うちは、お父さんもお母さんみたいに家事をする
- ・学校に行きたくても、行かせてもらえない女の子がたくさんいた、昔はね
- ・妻の仕事が認められるほど、夫が不機嫌になっていく…
- ・パパと一緒に暮らさないほうが、ママは幸せ
- ・「年頃になって結婚相手が決まらないのは大ごと」ってママが言った

知っているようで意外と知らない諸外国の理不尽な現実。古い時代から今なお続いている風変わりな慣習や価値観。そのことは決して日本も例外でなく、現代を生きる者として、しっかりと受け止めて、しっかりと考えて、しっかりと行動していかなければ、と思わされる本です。